

国際交流・協力等ネットワーク会議 ～国際理解セミナーに参加しました

野中泰子 (国際交流部会)

2019年10月28日(月)、(公財)ちば国際コンベンションビューロー、千葉県国際交流センター主催の「国際交流・協力等ネットワーク会議～国際理解セミナー」が千葉市の千葉県教育会館で開催され、当協会から国際交流部会員3名と事務局長が参加しました。

千葉県内の自治体、国際交流協会、日本語教室などの民間団体等から約50名が集い、情報交換、意見交換を行いました。県内他地域の様子を知り、共通の目的や問題意識を共有するなど、非常に有意義な会議でした。

以下詳細

まず午前の部では千葉県の状況について説明がありました。県内の外国人住民の増加は著しく、平成26年度以降毎年1万人のペースで伸びており、昨年末には約15万3千人に達しました。県人口の約2.4%、今やおよそ県民41人に1人が外国人という計算になります。都道府県別にみると全国で6番目、特に昨今「ベトナム」が「韓国・朝鮮」を抜き急増しているそうです。

千葉県では、外国人の増加に伴い、災害時にも適切な支援ができるよう体制を整備することです。災害時に外国語による情報提供や避難所での支援を行う「災害支援ボランティア養成講座」を7月には野田市で実施し、今年2020年2月には佐倉市で開催予定です。

外国語による情報提供としては、生活ガイドブック「ハローちば」を7か国語で作成しています。

続いて、(公財)ちば国際コンベンションビューロー、JICA 東京及び東京出入国在留管理局から事業説明があった後、(1)稲浜日本語ボランティア、(2)NPO 法人ハロハロ、(3)八千代市国際交流協会(日本語ボランティア部会)の3団体から活動紹介がありました。

午後からは3つのテーマで分科会が行われ、それぞれ意見交換がなされました。

分科会①国際交流協会の運営について

分科会②地域の外国人と日本人との交流について

分科会③SDGsの実践について

最後に、「国際交流セミナー」として、武蔵大学社会学部教授でジャーナリストのアンジェロ・イシ氏の講演がありました。タイトルは『外国人も日本人も暮らしやすい社会とは～“在日ブラジル人1世”からのラブコール』。「外国人」も「日本人」も「チーム日本」の同じ社会の一員として互いに助け合う存在でありたいということです。

このネットワーク会議及び国際理解セミナーの資料及び詳細な報告書は事務局に置いてあります。興味のある方はどうぞご覧ください。